

大高同窓会報

発行

千葉県立大多喜高等学校同窓会

千葉県夷隅郡大多喜町大多喜481
〒298-0216 TEL 0470-82-2621
URL
<http://www.chiba-c.ed.jp/otaki-h/>
E-mail otaki-h@chiba-c.ed.jp

印刷 (株) サラト
姫路市北条宮の町172番地
TEL 079-284-1380



会長あいさつ

同窓会長 猿田 寿男 (昭42高)

大多喜高校同窓会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より本会の運営にご支援ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

皆様に支えられ、お陰をもちまして、大多喜高校同窓会長の任を拝命し3年目を迎えることができました。

昨年は10月の総会をはじめ、大多喜支部、千葉支部、勝浦支部の各支部総会にも参加させていただき、多くの会員の皆様と意見交換をするなど、楽しい時間を過ごさせていただきました。

また、この4月には入学式に出席させていただきましたが、今年はちょうど桜が見頃を迎える中、163名の新入生が入学されました。皆さん緊張した面持ちの中にもこれからの学校生活への喜びと期待が感じられました。是非学校生活では多くの出会いを大切にされ、日々楽しく元気に学び過ごしていただきたいと思います。新入生の皆さんのこれからの活躍に大いにご期待申し上げます。

また、在校生の皆さんも文武両道に各方面でご活躍をされており、本会としてもとても喜ばしく誇りに思っております。

改めて、大多喜高校は学びやすい環境にあり、生徒は心身共に健やかに成長され、それが素晴らしい実績につながっているのだと感じております。大多喜高校の3年間では勉強、部活をはじめ、今しかできない様々なことにチャレンジし理想の将来につなげていただきたいと思います。

現在、私は勝浦市の市長を務めておりますが、ここ夷隅郡市はいま少子化や人口減少などが著しく、今後も人口は減少し、

少子化・高齢化が一層進展することが見込まれ、将来的なまちの存続が危機的な状況にあります。夷隅郡市は豊かな自然が魅力ですが、一方で、働く場や生活の利便を図るための施設等が少なく、進学を機に地元を離れてしまう若者も多く、結果として少子化につながっているのではないかと思います。

このような喫緊の課題を克服するため、現在勝浦市では、地域の創生に向けた各種事業に取り組んでおり、この度大原高校勝浦若潮キャンパス跡地への進出が決まったスーパーマーケットの建設やレジャー施設跡地への宿泊施設建設などを推進することにより、雇用の場、生活利便施設の確保に努めたいと考えております。

また、産官学連携による地元企業と就職を希望する学生のマッチングに向けた支援も行い、より多くの若者に地元就職の希望を叶えるよう支援し、さらに、近年の学校の統廃合による空き公共施設の活用も積極的に進め、企業誘致や、集会所施設などの利用を検討してまいります。

一方、若者の地元からの転出が進む中で、夷隅地域に魅力を感じ、移住し自ら起業されている方々も多くいらっしゃいます。

地元を離れて暮らしている卒業生の皆さんも、このような故郷の現状と課題に今一度関心を持たれ、地域活性に向け一緒に取り組んでいただければ心強い限りです。

結びに、近藤校長先生をはじめ、諸先生方の教育に対する情熱に敬意と感謝を申し上げますとともに、母校の一層の発展ならびに皆々様のご健勝とご多幸、ご活躍を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



新しい学び方が求められる時代へ

校長 近藤 克之

同窓会の皆様には、日ごろから本校の教育活動にご理解とご支援をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

本年4月から平野前校長先生の後任として勤務することになりました近藤と申します。私は鴨川生まれ鴨川育ちですが、教員としては地元の安房地区よりも夷隅郡市内に長くお世話になってきました。専門は理科(地学)ですので、昭和40年代の大多喜町の水害、茂原市の竜巻、また今話題の地磁気の逆転層などを授業の教材として活用したことも当地域の記憶として鮮明に残っています。この度、県内有数の歴史と伝統を誇る、この大多喜高等学校に赴任できましたことをとても光栄に感じるとともにその重責に身が引き締まる思いであります。微力ではありますが、本校の益々の発展のために力を尽くす所存ですので、どうぞよろしくお

願いたします。

今、高校教育は大きな転換点を迎えるようとしています。世の中は知識基盤社会へ変わりつつあると言われております。また、産業界は第4次産業革命の渦中にあり、人工知能AIやビッグデータの活用が急速に進んでいます。2011年にニューヨーク市立大学のキャシー・デビッドソン教授は、現在ある職業の多くがAI化や機械化により消滅または新しい職業に変わるため、「子供たちの65%は、今は存在していない職業に就く」と予測しました。つまり、将来、生徒たちは予想もしない職業に就き、経験したことのない新しい仕事や場面に直面する可能性が極めて高いと考えられます。

一方、国内に目を向けてみますと人口減少に伴う社会構造の変化が顕著です。日本の人口は2008年頃に1億2,800万人のピークに達し、その後減少に転じました。2017年版の総

務省「日本の統計」によると、今の高校生が定年の60歳を迎える2060年頃には人口が9,000万人を割り込み、現在の3分の2程度になると推定されています。同時に高齢者の増加と生産年齢人口の減少も進行します。

このような知識基盤社会への移行や産業構造の変化、そして日本特有の人口減少に伴う社会の変容に対応できる日本人を育てるために、小・中学校、高校、大学まで連続した教育改革が進められており、今年度末には次期高等学校学習指導要領が告示されます。この学習指導要領の最大の特徴は、教科・科目の変更に加え、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための「学び方（どのように学ぶか）」の変革を求めている点です。私が高校生のころから現在まで、高校の授業は教師の説明をしっかり聞き（もちろん聞きながら思考するわけですが）、ノートをとったり作ったりすることが基本型だったと認識しています。私も分かり易い説明を心がけ、プリントを工夫したり、時には実験や実習を組み合わせる授業を展開してきました。しかし、これからの教師は一方的な講義形式の授業を提供するのではなく、生徒が主体的・対話的に授業に参加する仕組みを提供して、それを支援するファシリテーターに成ることを要求されるようです。例えば「学び合い」というタイプの授業展開例ですが、「教師が説明し課題を与える（10分）」→「生徒同士で教えあったり、グループで協議したり、その結果を発表したり（35分）」→「学習成果の振り返り（5分）」のイメージです。少し極端か

もしれませんが、この授業では教師の役割は最初と最後の15分間程度、メインの35分間は生徒の活動の支援者となり、適切な助言等を与える役に徹することになります。日ごろ「わかる授業」を目指した講義中心の授業を行ってきた私たち教師にとって、新しいタイプの授業を効果的に実施することはとても難しく、根本的な意識改革を迫られることになります。

さらに、このような教科・科目や学び方の変革に先行して、大学入試制度が大きく変わる予定です。その概略は、①センター試験に代わり「大学入学共通テスト（仮称）」を実施し、記述式問題を導入。英語は4技能を測定するために民間資格・検定等を活用する。②一般・AO・推薦の各入試の名称を変更し、調査書と面接のみによる合否判定ではなく各大学が実施する評価方法または大学入学共通テストを必須とする。③調査書の記載を詳細化するとともに志願者本人の記載する資料を活用する。④出願や発表の期日を後ろ倒しする、などです。この新しい入試制度は、来年4月に入学する生徒（現中学3年生）から適用されるため各高等学校にとって待ったなしの課題です。

本校においても、「夷隅は遠く世界を目指す」気概を持った、これからの社会で活躍できる生徒を育てるために、長い歴史と伝統を守りつつ、新しい教育の流れに取り残されることがないように、職員一同研鑽に努めてまいりたいと思います。

同窓生の声

宮野（川崎）明子（昭38高）

この秋、卒業以来足を向けたことが無いという友を伴い大高を訪れた。

土曜日の午後で野球部の練習もなく、とても静かであった。

「この坂、もっと急じゃなかった？」

「天文台があるのね。」

「大井戸も残っている…」

「この囲いは何？誰も落ちる心配はないのにネー」等等、おしゃべりしながら昔の面影を探り合った。彼女にとって実に五十四年振りの母校だ。私にしても、昨年習志野市から住民票を移し、生れ育った大多喜の町民に戻ったばかりで、近年大高へは、今春お花見に來ただけである。

あの頃の大高は三階建ての木造校舎で運動場側には背の高い松が並んでいた。風格あった校門は脇にどかされ、薬医門としてとり置かれているが、校舎もグラウンドも位置は元のまま。そして体育館も「こっちだったネー。」と目を移すと、折しも女生徒が二人ボールを沢山抱えて出て来た。

「こんにちわ」と明るく挨拶をしてくれた。バレー部員という。

「明日、試合なんです。」

「あらそう、頑張ってるね。私達五十年以上前の卒業生よ。」

「ハア…！」とちょっとニコニコになった。何て気持ち良い生徒なんだろうと私達は同じ思いだった。

その二人を見送って、崖の上の城を見上げた。当時、城はなかった。そこは『ジョーダン』であった。テニスコートのある運動場で、体育の授業も行われた。昔から『ジョーダン』は花見の名所であったが、今でも城を見上げるこの崖の美しさは比類がない。この崖に道がある。『ジョーダン』へ登っ

た様に、城に出られる。桜の大木が幾本も残り足元は木の根道だ。息を切らしながら老婆二人、何度も足を止め下の校舎やグラウンド、少しずつ広がる町を眺めては城へと登って行った。

「『ジョーダン』てどういう字？」

「上段？城段？段は壇？」

「さて、どっち？」当時は考えてもみななかったが

「誰か教えて！『ジョーダン』て、どう書くの？」

とまれ、友は言った。

「こんな素晴らしい環境で三年間過したのネ！」と。

五十四年前の生徒時代、桜も松もジョーダンも当り前の風景でしかなかった。今振り返るとこんな中で学べたことは何と贅沢で幸せだったのだろうと、心底思われる。

現在の在校生もいつかきっとこんな感慨を持つのだろう。これ程美しく爽やかな環境に恵まれた高校は全国的にも珍しいのではないかしら。その上この母校は藩校からの歴史を受け継ぐ千葉県で三番目の伝統校なのだ。そうそう、私達の在学中に創立六十周年を祝っている。この伝統校に事もあろうに、存続の危機が迫っている、というのだ。「とんでもないこと！」と友人は憤った。同窓生は皆同じ思いであろう。『何とか存続させたい！』と思いは強くとも策が…！

しかし、九月発行の「同窓会報」を読むと、なんだか希望が湧いて来る。現校長平野先生の「思いは招く」の文中に大高発展に向ける真剣さが満ちているからだ。校長先生の真剣さが現場の先生方、生徒達に伝わりじわじわ地域に広がれば素晴らしい。先ず現場の熱さが無ければ最初の一歩も難しい。

地元の大多喜町としても手をこまぬいてはいなかった。町長、教育長始め大高出身者は大勢いる。支援の手始めとして

学びシステム「スタディサプリ」を提供したという。先ずは現役生徒の学力を鍛えたいという計らいである。このシステムは予備校に通うより効率的だと思う。いつでもどこでも求めれば学習出来るのだから。学力格差を地域性と言いつつ出来なくなる。校長先生は、このシステムを授業でも活用したいと仰る。出来得る限りの手を打って、是非とも大高の未来を照らして頂き度い。

だが、このサプリは高額である。いくらふさと納税で潤ったとは言え、大多喜町の支援にばかり頼っては片手落ちだ。こういう時こそ同窓生の援助が必要ではないだろうか。

知恵とつまり金。

卒後、ほとんどの同窓生は母校を訪れていないのでは…？どうか、今一度母校を訪ねてみて欲しい。ノスタルジックな思い出と共に必ずや母校への切なる愛着が湧いてくる筈である。

夷隅の地に大多喜高校あり、と。

友と二人、城からもう一度大高を見下ろし、清澄な空気の中反対側にある樹間の登城坂をブラブラと下りて大多喜駅へ向った。来春花の盛りに再会を約して…。

同期会だより

昭和55年3月卒業生の 同窓会を開催しました。

平成28年11月12日(土)、一宮町の「ホテル一宮シーサイドオオツカ」を会場に、学年同窓会を開催しました。今回は、51名の同窓生が集まるとともに、恩師3名もご出席いただきました。

久しぶりの再会でしたが、35年の年月がなかったように、高校時代のエピソード話で会場は大いに盛り上がり東の間のタイムスリップを楽しみました。

高校時代は、人生の中では大変短い期間ですが、最も多感な時期でもあると思います。そのような時期を良い仲間、良い恩師と過ごせたことを改めて感謝したいところです。

今回は東京五輪が開催される2020年に開催する予定です。より多くの仲間たちと会えることを期待し、再会を誓い、散会となりました。

結びに、お忙しい中ご出席をいただきました長野泰男先



生、田中洋一先生、金澤弘光先生へ心より感謝するとともに、大多喜高校の益々の発展をお祈りいたします。

昭和55年3月卒業 久我洋一・渡辺晴久

平成17年度卒業生同窓会

平成29年2月18日(土) 海浜幕張のアパホテル内「ラ・ジュエ・ド・シエル」にて平成17年度卒の同窓会を開催しました。

参加者は生徒34名、恩師3名、お子さん10名で計47名に至りました。

同窓会を開催するにあたって、SNSや手紙等で呼びかけより良いものにしたいと、この日のために頑張ってきました。

時期も時期なだけあり、出席人数は少なく、当日にも残念なお知らせが何件入りしましたが、とても楽しい時間を過ごすことができましたと思います。

また、当日来賓下さった恩師からの一言では当時は思い出させて頂きました。懐かしい仲間と当時は振り返り思い出と近況報告、将来について等々つきることのない話を花を咲かせてくれたと思います。

卒業後、進学、就職、結婚、と様々な道を歩んでいます。また開催する予定の同窓会で今日という日もひとつの思い出としてみなさんの心に残っていれば良いな、と思います。



これから先、さまざまな人と出会い、色々な経験をみなさんしていくと思います。ですが、いつまでも大多喜高校同窓生として繋がっていれば嬉しいです。

今回は5年…もしくは10年後に企画予定です。今回参加できなかった方はもちろん、連絡がとり合えなかった方をこれを機に、という方はぜひ連絡下さい。

またお会いできる日を楽しみにしています。

元3年C組 河村(布留川) 恵子

夷隅郡市の児童・生徒数の推移と大多喜高校

副会長 加藤 茂 範 (昭45高)

現在、少子化の進行は、夷隅郡市（大多喜町、御宿町、いすみ市、勝浦市の2市2町 以下、郡市と略。）でも顕著です。郡市では、平成16年度に大多喜高校と大多喜女子高校が統合し、新生「大多喜高校」が誕生しました。また、平成17年度には勝浦高校と御宿高校が統合し、「勝浦若潮高校」となり、平成27年度には、大原高校、勝浦若潮高校、岬高校の三校が統合し、新生「大原高校」が誕生しました。ほぼ、10年間に、郡市に6校あった高校は、2校となり、平成29年度現在、1学年の募集定員は、大多喜高校160名（4学級）、大原高校240名（6学級）と両校合わせた募集定員も平成16年度比で半減しています。両校合わせた募集定員は、400名ですが、1学年在籍数は、343名で、1校は25%ほど欠員があります。

県教育委員会資料で、郡市の児童・生徒数の推移を示します。なお、統計数値は、平成29年6月現在です。郡市の中学3年生は495名、小学校5年生は、462名、小学校1年生は、401名です。中学3年生に比べ、小学校1年生は94名減、比率で81%となります。現在、高校進学率は、98%超となっており、また、郡市在住の生徒の高校進学の内、郡市の高校への進学は、60%程度と予想されます。他は、長生郡市や学区が拡大しているため千葉市内の公立高校、私立高校等に進学しています。

ここでは、高校進学率は、98%、進学者の内、郡市の高校への進学60%、1学級定員40名の数値を使用し、今後の郡市の高校への進学人員、必要学級数等について予測してみます。

来年度、進学人員は291名、必要学級数7.3、小学校5年生が進学する5年後、進学人員は272名、必要学級数6.8、小学校1年生が進学する9年後、進学人員は236名、必要学級数5.9となります。仮に、郡市に必要学級数「6」としますと、高校は1校で充足してしまいます。大多喜高校も大原高校も伝統と実績のある高校です。多くの有為な人材を輩出しており、地域の活性化に貢献し続けています。

高校が少なくなりますと、どうなるでしょうか。中学生が、自己の希望や適性にに応じて、選択できる余地が狭まります、遠くの高校まで通学するためには、時間と交通費も増え、保護者負担も拡大します。郡市に高校生の雇用先も限られており、大学等へ進学した場合、地域に戻ってこない可能性も高まります。その結果、益々、少子化が進行するという悪循環に陥ります。10年後、20年後、地域が活力を喪失する事態は回避しなければなりません。大多喜高校の存続を切に願う同窓生として以下に、私見を述べます。

(1)「地域の生徒は、地域で育成する。」

大多喜高校には、教育熱心な教員が多くいます。学業面では、高校入学後、学力の伸長度が高い生徒が多いという声は、よく耳にします。豊かな自然環境の中に立地していること、教員の指導力や家庭の理解・支援等の教育力の高さなどが背景にあると思います。部活動面でも

学年4学級規模の学校の中では、少ないと思われませんが、毎年運動系・文化系を問わず全国や関東大会に出場するなど顕著な実績を挙げております。部活動では、運動能力の優れた郡市の中学生が、私立高校等に進学する例が散見されます。しかし、家から近い大多喜高校で、「御山の大将」的に活動した方が、本人も学校生活を楽しめるとは思います。いかがでしょうか。また、大多喜高校には、中卒、高卒者を雇用しない企業からの求人も増加傾向にあると聞きます。やはり社会で同窓生が活躍している伝統校の強みだと思います。いずれにせよ、進学・就職の両面に渡って対応できている学校の特性を更に、近隣の中学校に情報発信することを学校側に期待します。

(2)「過疎地特例校」または、「過疎地特例のモデル校」として、1学級定員を40名から30名に減らして学年5学級程度を確保。

太平洋岸は銚子地区から安房地区まで、等しく高校の統合や学級減が進行しています。状況は本郡市と同様です。全国を俯瞰しましても過疎地域での高校統合の動きは顕著です。1学級定員を40名から30名に減らせば、上記の数値に基づきますと、小学校1年生が進学する9年後、郡市の高校の必要学級数は7.9となり、郡市に高校2校は、充分存続できます。「地域の生徒は、地域で育成する。」傾向が定着すれば、学級数の増加も可能です。地域の活力を維持するためには、「郡市から高校をこれ以上減らしてはいけない」の願いは、地域の住民共通のものだと思います。高校は、学級数に応じて教員数が決定しますので、財政的な問題はあるにせよ、学級定員を減らすこの課題は、教育問題ではありますが、すぐれて過疎対策でもあります。残された時間は、あまりありません。早急に関係自治体の首長・議員、行政機関などの理解を得て、同窓生、地域住民、保護者などが一体となって、この問題に取り組む必要があると思います。

(3)「地元自治体（特に大多喜町）と密接に連携する。」

大多喜町内で、学校まで徒歩または、自転車で通学できる範囲の家庭に呼びかけて、下宿先を確保し、親元を離れて他地域から大多喜高校で学びたい生徒に便宜をはかる。各学年10名程度の、他地域からの生徒が入学すれば、現状でも定員は確保できます。住む環境が整えられれば、自然環境に恵まれ、文武両道の気風のある大多喜高校には、他地域からの志願者は、いると考えます。

終わりに、平成28年度で、大多喜女子高校の卒業生7,767名を含み大多喜高校の卒業生総数は、27,500名を超えています。郷里を遠く離れた人もいれば、母校近くに在住される方もいます。また、世代の相違を超え、人生の礎を培い多感な時期を過ごした高校生活には、様々な思いをお持ちのことと思います。現在学んでいる在校生も同様です。

同窓生の皆様方が、まずは母校を取り巻く現状をご理解頂き、母校の存続・発展に建設的な提案を頂けましたら大変ありがたいところです。

支部・OB会だより

▶▶ 大多喜支部

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、平成29年5月23日に飯島勝美後援会長様、近藤克之校長先生を来賓にお迎えし、平成29年度千葉県立大多喜高等学校大多喜支部総会を開催いたしました。議題は、①平成28年度事業報告及び決算報告、②平成29年度事業計画及び会計予算(案)につきまして、満場一致で承認されましたのでご報告申し上げます。



昨年の同窓会総会で大多喜高校の募集定員に対する定員割れが続くと、隣接高校と統廃合問題に発展する可能性があり、伝統ある大多喜高校を守るにも、スクールバスの運行がかかせないと、提案されました。

大多喜町教育委員会は、大多喜高等学校支援推進委員会を平成28年6月20日に設立し、28年度に3回推進委員会を開催いたしました。大多喜高等学校PTAは、全校生徒を対象に「通学に関する実情調査」のアンケートを実施いたしました結果から意見要望を抜粋すると、①バス、いすみ鉄道が登下校時に合う時間が無い、②いすみ鉄道と小湊鉄道、いすみ鉄道と外房線との接続が悪い。③通学がネックで断念する人。④交通費が高く受験をしない生徒、⑤有料スクールバス運行を希望する人が多くいる、と書かれています。

年々高校受験生が減少してゆく中で、伝統ある大多喜高等学校を存続するためには、スクールバスの運行方法など、同窓生の皆様の英知を結集し、存続に向けたご支援ご協力をお願い申し上げます。

大多喜支部長 三上幸男

▶▶ 女子高支部

女子高支部では5月28日(日)に近藤校長先生をはじめ、山岸教頭先生、藤岡事務長、竹山同窓会事務局局長をお迎えし、会員15名の出席を得て総会を開催しました。

近藤校長先生は本年度より大多喜高校勤務となりました。昭和62年より12年間女子高に勤務されたことも交えて自己紹介、挨拶がありました。

事務局竹山先生からは、入学選抜、進路指導、部活動の様子等学校の現状について説明がありました。

総会では、28年度事業報告、決算の承認、29年度行事計画案、予算案については作成せず決算報告のみとすることで審議、承認されました。

29年度より親睦会形式として開催しました。会場をレストランシーガルに変更し、昼食を兼ねての懇親会としました。参加者は少人数となりましたが、皆さんの顔の見える近さで親しく懇談し散会しました。



▶▶ 経友会活動報告

平成29年6月15日、レイクウッド大多喜CCを会場に、第66回経友会ゴルフコンペを開催しました。

コンペ後の懇親会の席上、引田会長から同窓会事務局担当者、後輩の活躍に役立ててもらおう趣旨で3万円を手交しました。有効に活用してください。

経友会は、主として千葉地区周辺に居住する同窓生が、母校の支援と会員相互の親睦を目的に発足しましたが、現在は同窓生であればどなたでも行事等への参加を歓迎いたします。現在は、総会と年2回(春・秋開催)のゴルフコンペを実施しております。コンペは、開催毎に母校近くのゴルフ場を会場に行われております。

経友会役員

- 会長 引田紘一 (S33年度卒)
- 幹事 秋田幸一 (S46年度卒)
- 幹事 太田雅彦 (S58年度卒)

経友会の皆様より3万円の寄付をいただきました。ありがとうございました。

▶▶ サッカ一部OB会

第16回大多喜町近隣少年サッカー大会 大原FC4年ぶり6度目の優勝を飾る



第16回大多喜町近隣少年サッカー大会が、晴れ渡った冬空の下、12月17日(土)に大多喜海洋センター多目的広場で開催されました。

夷隅郡市内、茂原市内から15チームが参加し、夷隅のワールドカップの頂点を目指し熱戦が繰り広げられました。出場が予定されていた昨年準優勝の国吉FCは、直前に主力選手数人が体調不良を訴え、急きょ本戦を欠場しました。

試合結果は、昨年優勝した大多喜小学校FCが2回戦で年々力をつけてきた東海FCと対戦し、PK戦の結果0対1で惜しくも敗退、過去に最多優勝を誇る大原FCは2回戦で西小FCと対戦、3対1で勝利し、そのまま勝ち進み決勝戦へと駒を進めました。

一方別のトーナメントからは、FC勝浦が3回戦で茂原SCを2対1で下し、決勝戦へと進み、大原FCとFC勝浦と第1回大会と同じ決勝対決が行われました。

両チームともお互いに譲らず30分の激闘が続いた結果、試合はPK戦となり、一人のミスなく確実にゴールへ蹴りこんだ大原FCが4対2で勝利し6度目の優勝を飾りました。

大会を主催する千葉県立大多喜高等学校サッカー部OB会の渡辺会長は、「子どもたちは、この大会を夷隅のワールドカップとして大変喜んでいる。サッカー技術の向上を図ることも一つの目的だが、子どもたちの友情の輪を広げることも大きな目的としています。」とコメント。選手全員が大多喜高校へ進学してほしいと保護者に訴えていました。

【参加チーム】

大多喜小学校FC、長者FC、東海FC、FC中川、千町小学校、大原FC、西小FC、東FC、茂原SC、中根FC、上野小サッカークラブ、太東小学校、豊浜FC、FC勝浦、古沢小学校

▶▶ 大原支部

大多喜高校同窓会大原支部(旧大原町在住者の同窓生で構成)では、しばらく活動が休眠状態になっていた組織を、前役員全員の了解の下に新体制を作るべく、昨年10月15日(土)に大原文化センター大会議室に於いて支部総会を開催し、新役員体制をスタートする事に致しました。総会では12名の出席の下、まず大原支部の会則を決定しました。

その結果支部長1名、副支部長1名・幹事を置くことと定め、支部長には、昭和38年卒の青柳英俊さんを選出しました。

副支部長・幹事は、支部長の委嘱によるという会則の下で、支部長から副支部長には昭和43年卒の藍野常司さん、幹事には11名が委嘱され新体制がスタート致しました。

この後、本部副会長でもある加藤茂範さんより大多喜高校の現況報告・急速に進む地域少子化の状況の説明がなされ、出席者一同母校をよりよい形で存続させるためには、みんなでいい知恵を出し合おうねばという思いを強くして散会致しました。

次に今年度の、大原支部総会案内をさせていただきます。

期日 10月14日(土) 13時より
 場所 いすみ市日在 女良食堂
 会費 3,000円

出席の連絡先、新井洋一携帯宛 090-7566-0351でお願いします。準備の都合上10月10日(火)迄にご連絡下さい。

今年度は、2回目という事で、会員の親睦と食事をしながら「母校をよりよく存続させる為にはどうしたらよいか」をテーマに、皆様の知恵をお聞かせ戴き話し合いたいと考えております。多くの支部同窓の皆様のお出席をお待ちしております。

▶▶ 岬支部

平成29年度同窓会岬支部総会・懇親会のお知らせ

日時 平成29年10月21日(土) 午後6時から
 場所 女良食堂 (いすみ市日在1434 電話0470-62-1616)
 総会 平成28年度会計報告、その他議事、母校からの近況報告
 懇親会 総会終了後 会費6,000円
 幹事 矢代一秀(高21回 昭和44) 090-4831-1986
 安藤常雄(高27回 昭和50) 090-1456-0820

平成27年度 同窓会決算報告書

【一般会計】

収入総額 5,569,677 円
 支出総額 2,444,404 円
 差引残額 3,125,273 円 (次年度へ繰越)

収入の部 単位：円

科目	予算額	決算額	増減額	説明
繰越金	3,294,312	3,294,312	0	前年度繰越金
会費	0	0	0	
入会金	810,000	810,000	0	5,000円×162名
賛助金	2,000,000	1,464,990	△ 535,010	同窓会報発行賛助金
繰入金	0	0	0	
雑収入	500	375	△ 125	寄付金、預金利息
計	6,104,812	5,569,677	△ 535,135	

支出の部 単位：円

科目	予算額	決算額	残額	説明
会議費	250,000	101,365	148,635	総会補助、役員会議費
運営費	150,000	53,062	96,938	事務費、通信費
活動費	600,000	422,360	177,640	支部活動費、旅費等
広報費	2,000,000	1,867,617	132,383	同窓会報発行代
雑費	80,000	0	80,000	
予備費	3,024,812	0	3,024,812	
計	6,104,812	2,444,404	3,660,408	

監査報告書

諸帳簿並びに証拠書類を精査したところ、適正であることを認めます。
 平成28年9月8日

監事 酒井太門 @
 監事 渡辺雅文 @

【特別会計】

収入総額 1,795,092 円
 支出総額 0 円
 差引残額 1,795,092 円 (次年度へ繰越)

収入の部 単位：円

科目	予算額	決算額	増減額	説明
繰越金	1,794,798	1,794,798	0	前年度繰越金
雑収入	500	294	△ 206	預金利息
計	1,795,298	1,795,092	△ 206	

支出の部 単位：円

科目	予算額	決算額	残額	説明
繰出金	0	0	0	
予備費	1,795,298	0	1,795,298	
計	1,795,298	0	1,795,298	

監査報告書

諸帳簿並びに証拠書類を精査したところ、適正であることを認めます。
 平成28年9月8日

監事 酒井太門 @

監事 渡辺雅文 @



部活動状況

平成29年 第41回全国高等学校総合文化祭

美術・工芸部門 森 優香 (3A) (岬中出身)

陸上部

千葉県陸上競技選手権大会

男子1,500m 第2位 鈴木崇也 (3B) (勝浦中出身)

// 第6位 平田拓海 (3B) (加茂中出身)

関東高等学校陸上競技大会出場



	男	女	合計
柔道	12	3	15
剣道	9	9	18
陸上競技	25	21	46
弓道	27	22	49
野球	37	4	41
ソフトテニス	14	8	22
バレーボール	6	14	20
バスケットボール	11	20	31
サッカー	29	11	40
卓球	15	4	19
生 物	6	1	7
美 術	5	9	14
書 道	1	16	17
マンドリン・ギター	1	22	23
演 劇	0	5	5
英 語	5	5	10
吹 奏 楽	6	31	37
茶 道	6	16	22
華道同好会	0	0	0



平成28年度進路状況報告

進路指導主事 佐藤 幸生

平成28年度進路指導を振り返る

1学年4クラスの高校として安定してきた大多喜高校。平成28年度もこの規模の高校としては充実した進路実績を残した。大学進学が88名、短大進学が19名、専門学校進学が35名、就職が民間で5名、公務員が8名。ここ1、2年微妙に就職希望者が増えているが、民間では千葉銀行、関電工、大崎電気システムズ他、公務員では千葉県職員、大多喜町役場、勝浦市役所、警視庁、千葉県警、千葉市消防局など納得のいく結果を得ている。ただ、気になるのは大学受験において一般受験で挑戦する生徒が増えないことだ。ここ数年多くがAO入試と推薦入試で進学しており、一般受験に挑戦したのは昨年度の場合約30名ほどで、結果として国公立大学進学者も数名に留まっている。昨年度の場合、国公立大学合格者は琉球大学、滋賀大学、釧路公立大学、千葉県立保健医療大学で4名であった。一般受験として国公立大学受験に向けた新たな取り組みが必要である。

昨年度の本校の進路指導の概要

- (1) 進路説明会 〈3年〉4月
外部講師等による分野別（大学・短大・専門学校・就職など）進路説明
- (2) 夏期・冬期・実力養成講座授業、進学課外授業
- (3) 1年大学見学会（バス）明治大・神田外語大7月
- (4) 看護体験・インターンシップ他 7・8・11月
県庁インターンシップ、いすみ医療センター、小中学校サマースクール学習支援ボランティア、君塚病院、いすみ鉄道アテンダント体験他
- (5) 大学出張講義体験会 11月
國學院大・文教大・専修大・駒澤大・立正大・東邦大・順天堂大・国際医療福祉大・東京情報大・千葉経済大学短大
- (6) 保護者進路説明会 11月
内藤 紗弥花VITA氏 「親が元気になる！話」
- (7) 進路講演会 12月 山内 太地 氏
「時間と学費をムダにしない進路選択」
- (8) 2年進路説明会 〈2年〉12月
大学・短大・専門・民間就職・公務員の進路説明
- (9) 進路報告会 3月 卒業生の体験談ほか
琉球大、千葉県立保健医療大、明治大、学習院大、東邦大、玉川大、成蹊大、順天堂大、日本

大、城西大、千葉敬愛短期大、日本ホテルスクール、千葉市立青葉看護専門、千葉医療福祉専門、千葉銀行、千葉県警、勝浦市役所他

平成28年度卒業生主な進学先

〔四年制大学〕

琉球大、千葉県立保健医療大、明治大、学習院大、日本大、東洋大、駒澤大、専修大、國學院大、明治学院大、順天堂大、東邦大、国士舘大、玉川大、神田外語大、国際医療福祉大、東京農業大、聖徳大学、大妻女子大、共立女子大、和洋女子大、千葉工業大、帝京平成大、淑徳大、多摩美術大、帝京大、城西国際大、城西大、産業能率大、千葉経済大、桜美林大、国際武道大、秀明大 他

〔短期大学〕

千葉敬愛短大、植草学園短大、千葉経済短大、千葉明德短大、女子栄養大学短大、聖徳大学短大 他

〔専門学校〕

千葉中央看護、千葉市青葉看護、鶴舞看護、船橋中央看護、亀田医療技術、千葉医療福祉、国際医療福祉、日本ホテルスクール、日本工学院、日本外国語、千葉美容、大原簿記 他

〔公務員・民間就職〕

千葉県職員、大多喜町役場、勝浦市役所、千葉県警、千葉市消防、警視庁、千葉銀行、関電工、大崎電気システムズ 他

◇平成28年度卒業生進路状況

種別 性別	大学		短大		専門 学校	就職		浪人 ・他	合計
	国公立	私立	国公立	私立		民間	公務員		
男	0	46	0	3	14	3	6	5	77
女	2	40	0	16	21	2	2	2	85
計	2	86	0	19	35	5	8	7	162



事務局だより

●平成28年 年度末人事異動

《退任された先生方》

- 平野 明 [校長] 退職 H27～ 2年間
上総高等学校 再任用
- 丸 健一 [芸術(書道)] 転任 H19～ 10年間
市原高等学校
- 高橋 功 [国語] 転任 H28～ 1年間
大原高等学校 再任用
- 大平 源治 [地理歴史] 転任 H28～ 1年間
一宮商業高等学校 再任用
- 市川 幸治 [理科] 退職 H22～ 7年間
長狭高等学校 再任用
- 田中 善宏 [保健体育] 転任 H28～ 1年間
大原高等学校 再任用
- 森川 文恵 [主査] 転任 H26～ 3年間
千葉県立中央博物館副主幹

《転入された先生方》

- 近藤 克之 [校長] 安房拓心高等学校
- 山本 郁夫 [国語] 東金商業高等学校 再任用
- 座間まゆみ [国語] 木更津高等学校
- 有馬恵美子 [芸術(書道)] 土気高等学校
- 浅野 照久 [理科] 大原高等学校 再任用
- 牧野 敦 [理科] 新規採用
- 江澤登美江 [主査] 長生高等学校

訃報

元千葉県議会議員で、三日月グループ会長の小高芳男(昭22中)氏が7月10日に逝去されました。享年87歳。
小高氏は昭和22年旧制大多喜中学校を卒業され、三日月グループを創設。勝浦市、鴨川市、木更津市、県外などで観光ホテル経営に携わり、1983年に県議会議員選挙で初当選し、2期8年間議員を務められました。そして大多喜高校同窓会顧問として、これまで長年にわたり本校発展のために尽力されました。
ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

平成29年度 同窓会総会・懇親会のお知らせ

日時 10月29日(日) 午前11時20分～

場所 勝浦ホテル三日月

会費 男性 8,000円 女性 5,000円

お問い合わせ、お申し込みは、
下記までお願い致します。

TEL 0470-82-2621

(大多喜高校内・同窓会事務局)

●異動連絡のお願い

住所等の異動の折には郵便はがきなどで同窓会事務局にご連絡ください。同窓会関係の郵便物が宛先不明で返送されますと会員名簿上での住所は空欄となります。同窓会事務局では少しでも正確な情報を把握しておきたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願い致します。

●原稿募集のお願い

同期会・クラス会・OB会等を開催されましたら、会報に掲載しますので、ご連絡をお願い致します。また、同窓会報の『同窓生の声』に寄稿いただける方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局へご連絡下さい。

千葉県夷隅郡大多喜町大多喜481 TEL 0470-82-2621
千葉県立大多喜高等学校同窓会

●個人情報について

個人情報についてですが、同窓会員の情報は欄サラトにて一括管理されています。これは、会報の発行や名簿作成のためです。それ以外の使用は一切行っておりませんのでご承知ください。

●役員名簿

会長	猿田 寿男 (昭42高)	
副会長	福山 悦男 (昭29高)	
	近藤 万芳 (昭32高)	
	太田 洋 (昭41高)	
	加藤 茂範 (昭44高)	
	櫻井 榮子 (昭29女)	
	稲村千代子 (昭35女)	
監事 (会計監査)	酒井 太門 (昭41高)	
	渡辺 雅文 (昭43高)	
顧問	齋藤 萬祐 (昭32高)	
	山口 登 (昭37高)	
支部長	大多喜	三上 幸男 (昭40高)
	大原	青柳 英俊 (昭38高)
	勝浦	猿田 寿男 (昭42高)
	茂原	村杉 仁 (昭31高)
	千葉 (千葉大会)	福山 悦男 (昭29高)
	岬	矢代 一秀 (昭44高)
	女子高	中村美智子 (昭49女)

【支部長は各支部で選出していただいています。】

トピックス

平成28年度

- ・本校による、いすみ鉄道への支援活動の取り組みがテレビやラジオ、雑誌など多くのメディアに取り上げられました。今後も生徒会やいすみ鉄道対策委員会を中心に積極的に取り組んでいきます。
- ・昭和61年度卒業生の皆様・代表として本間正人様より54,109円の寄付をいただきました。ありがとうございました。
- ・昭和41年度2年F組卒業生有志・代表として鈴木健司様より、学校に書籍の寄付をいただきました。ありがとうございました。

平成29年度

- ・経友会の皆様より30,000円の寄付をいただきました。ありがとうございました。